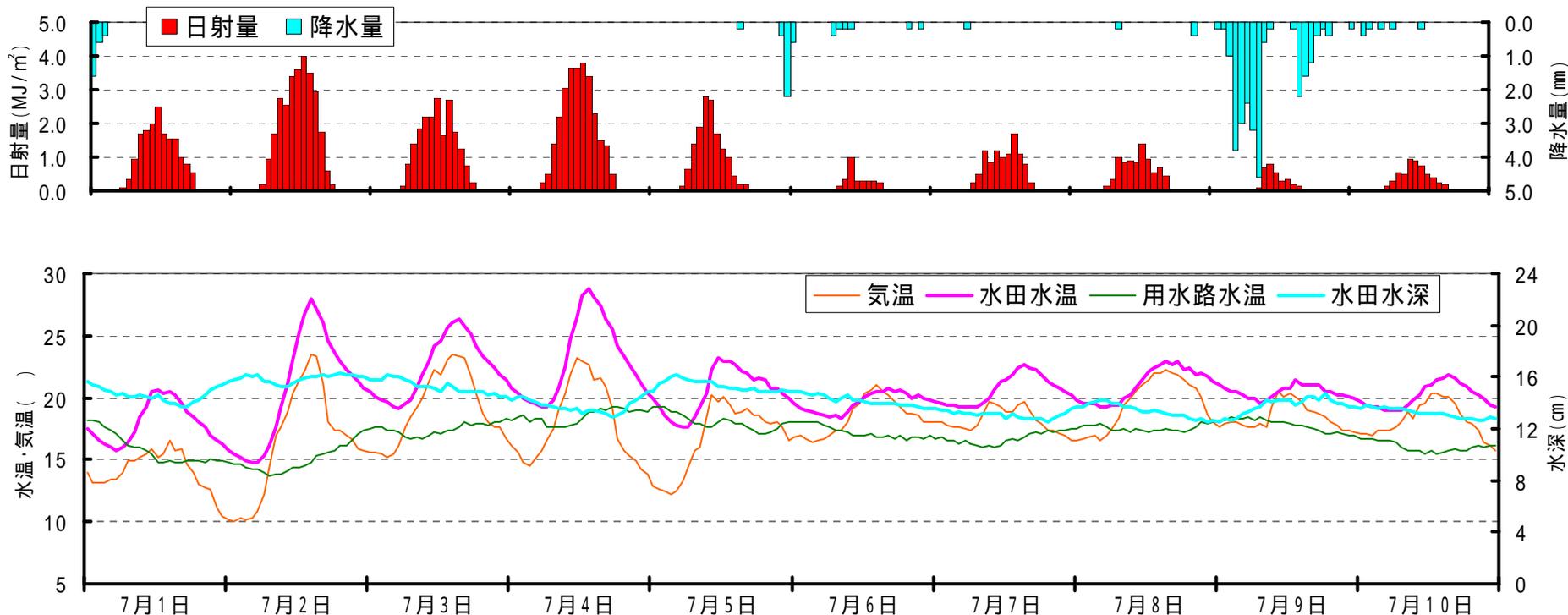


前歴期間～冷害危険期



水稲は6月下旬から幼穂を地際に形成します。水田の水管理はこの時点スタートに幼穂の伸長に合わせて、1cm/日のピッチで水深を漸増し、7月上旬の冷害危険期の始めまでに水深を20cmに高めます。この水深で以後10日程度の期間を維持し、『気温より高く保たれる水温で幼穂内で発育する花粉の減数分裂や、この後の花粉の充実を図る』のが危険期の管理の骨子です。
この時の平均水温が20 以上であれば、不稔籾の発生がわずかとなります。